

社会資本総合整備計画(変更)

◆計画の名称：安全で利便性が高く快適な港湾環境の形成

◆計画の期間：平成24年度～平成28年度 5年間

◆交付対象：苦小牧港管理組合

◆計画の目標：係留施設や臨港交通施設等の港湾施設整備を適正に行い安全で利便性が高く快適な港湾環境の形成を図る。

◆計画の成果目標：

○苦小牧港西港区埠頭間道路の整備を行い、勇払～晴海ふ頭における港湾低速車両の移動時間を15%短縮させる。

○苦小牧港西港区第1船溜に新たに物揚場を整備し、第1・第2船溜の係留施設延長に対するポートサービス船の総延長(余裕長を含まない)の割合を114%から92%に改善する。

◆交付金対象事業：

事業名	事業内容	港湾・地区名	事業実施期間(年度)					全体事業 (百万円)
			H24	H25	H26	H27	H28	
埠頭間道路整備	道路の整備	苦小牧港・西港区						770
第1船溜整備	物揚場・泊地の整備	苦小牧港・西港区						498
合 計 (港湾事業)								1,268

◆事業評価：

苦小牧港管理組合では、目標の妥当性、計画の効果・効率性、計画の実現可能性の3点について評価をしています。
評価内容は、次項に示しています。

事業評価

項目	評価項目	評価	備考
目標の妥当性	上位計画との整合性	○	苫小牧港港湾計画と整合した整備計画である。
	地域の課題への対応	○	地域課題を踏まえた整備計画である。
計画の効果・効率性	整備計画の目標と定量的指標の整合性	○	整備計画の目標に合致した定量的指標である。
	定量的指標の明瞭性	○	客観的な指標である。
	目標と事業内容の整合性	○	目標に対応した事業内容である。
	事業の効果の見込みの妥当性	○	目標の妥当性より事業効果は十分期待できる。
計画の実現可能性	円滑な事業執行の環境	○	関係者等の理解と協力を得ており、円滑な事業遂行ができる。
	地元の機運	○	利用者からの強い要望があがっている。

苫小牧港計画平面図

計画の名称	安全で利便性が高く快適な港湾環境の形成		
計画の期間	平成24年度 ~ 平成28年度 5年間	交付対象	苫小牧港管理組合

